

全国屈指の城下町

九州のお目付役だった有馬家

江戸時代の久留米藩は、石高が21万石で全国でも20番目、13万600人が住んでいました。有馬家による久留米のまちづくりは、元和7（1621）年、初代藩主・有馬豊氏の入国に始まります。豊氏の父・則頼は豊臣秀吉に仕え、関ヶ原合戦で東軍として徳川方で活躍。その功績から、豊氏とともに大名になりました。豊氏は、徳川家康の養女・連姫と結婚し、大坂の陣でも功を上げます。徳川家からの信頼を得た豊氏は、丹波福知山（現在の京都府福知山市）の8万石の藩主から、久留米に国替えとなります。21万石の藩主となりまさに大出世でした。

当時の江戸幕府の支配は盤石ではなく、遠く離れた九州は、筑前の黒田家、肥前の鍋島家、薩摩の島津家など豊臣系の外様大名が多く、幕府にとっては不安が拭えませんでした。豊氏が縁のない久留米に送られたのは、九州の大名たちを監視し、安定させるための政策だったといわれています。有馬家は、明治維新まで11代にわたり久留米藩を治め、治

水、寺社への寄進、産業振興など現在の久留米市の礎を築きました。

70年の歳月をかけた久留米城

久留米城は、16世紀頃に敵を防ぐ小さな城として築かれました。戦国時代から江戸時代の初期にかけて、小早川秀包や田中吉政、忠政によって整備され、豊氏によって巨大な城へと生まれ変わります。城島城や赤司城の資材を転用して改修。完成まで4代にわたり約70年かかりました。東面の城の大手口を南面に変更し、北側に堀や筑後川で区画された本丸を配置。二ノ丸、三ノ丸、外郭を拡張します。城内は、堀や土塁で防御され、上級家臣の屋敷や藩役所もありました。範囲は、南北1.7km、東西1.2km、現在の久留米市役所の北側まで広がっていました。菩提寺の梅林寺を建立し、寺院を寺町に集め、新町、三本松、武家屋敷、通町を整え、全国屈指の城下町が完成しました。この町割りも、現在の市街地の原型になっています。

文化財保護課（☎0942・30・979225、FAX0942・30・9714）

久留米歴代藩主

- 初代 豊氏 とようじ
- 二代 忠頼 ただより
- 三代 頼利 よりとし
- 四代 頼元 よりもと
- 五代 頼旨 よりむね
- 六代 則維 のりふさ
- 七代 頼愷 よりゆき
- 八代 頼貴 よりたか
- 九代 頼徳 よりのり
- 十代 頼永 よりとお
- 十一代 頼咸 よりしげ



久留米藩主を祭る篠山神社。明治12（1879）年に本丸跡に建てられました

▶久留米初代藩主・有馬豊氏。茶人・千利休の弟子として「利休十哲」にも上げられ、茶人としても一流でした《篠山神社蔵》



▼天保年間久留米城下図。江戸時代の久留米城（赤枠）は現在の市役所近くまで広がっていました《久留米市教育委員会蔵》

